

The Japanese Journal of PHYCOLOGY

CONTENTS

- Nair S. Yokoya and Eurico C. Oliveira:** Effects of temperature and salinity on spore germination and sporeling development in South American agarophytes (Rhodophyta) 283
- Shi Zhi-xin, Hu Zhen-yu and Shigeru Kumano:** *Batrachospermum heteromorphum*, sp. nov. (Rhodophyta) from Hubei Province, China 295
- Shigeo Kawaguchi:** Taxonomic notes on the Halymeniaceae (Rhodophyta) from Japan. II. *Halymenia rotunda* Okamura 303
- Nobuyoshi Nanba:** Egg release and germling development in *Myagropsis myagroides* (Mertens ex Turner) Fensholt 315
- Gianfranco Sartoni, Francesco Cinelli, Tetsu Hirata, Nobuyasu Katayama and Yasutsugu Yokohama:** On the lack of green light-harvesting pigments and the extremely high chlorophyll b/a ratio in the deep-water green alga, *Palmophyllum crassum* (Chlorosphaerales) 327
- Ryozo Seto and Shigeru Kumano:** Reappraisal of some taxa of the genera *Compsopogon* and *Compsopogonopsis* (Compsopogonaceae, Rhodophyta) 333



Notes

- Toshiyoshi Araki and Tatsuo Morishita:** Isolation and regeneration of protoplasts from *Bangia atropurpurea* 341
- Myung Sook Kim, In Kyu Lee and Sung Min Boo:** Phenology and morphology on *Gracilaria verrucosa* (Rhodophyta) on the west coast of Korea: A statistical approach 345
- Miyuki Maegawa, Masayo Kunieda and Washiro Kida:** Difference of the amount of UV absorbing substance between shallow- and deep-water red algae 351
- Ryozo Seto, Seiji Migita, Katsumaro Madono and Shigeru Kumano:** A freshwater red alga, *Thorea okadai* Yamada from the Yasumuro-river in Hyogo Prefecture and the geographical distribution of the species of *Thorea* in Japan (in Japanese) 355



Miscellanea

- The report of Asia-Pacific Phycological Forum (in Japanese) 359
- On the International Phycology Forum in Tsukuba; Phycological Sciences —Today and Tomorrow— (in Japanese) 363
- Memorial lectures in honor of Prof. Tamiya and Prof. Avron 367
- Report and abstracts of International Phycology Forum (IPF) in Tsukuba; Phycological Sciences —Today and Tomorrow— 379
- Obituary (in Japanese) 421
- Book Reviews (in Japanese) 423
- Announcement (in Japanese) 425
- News (in Japanese) 427
- Contents of Volume 41 i-iv

日本藻類学会

日本藻類学会は1952年に設立され、藻学に関心をもち、本会の趣旨に賛同する個人及び団体の会員からなる。本会は定期刊行物「藻類」を年4回刊行し、会員に無料で頒布する。普通会員は本年度の年会費7,000円(学生は5,000円)を前納するものとする。団体会員の会費は12,000円、賛助会員の会費は1口20,000円とする。

庶務および会計に関する通信は、602 京都市上京区下立売通小川東入 日本藻類学会宛に、また「藻類」への原稿の送付は 184 小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学生物学教室内 日本藻類学会編集委員会宛にされたい。

The Japanese Society of Phycology

The Japanese Society of Phycology, founded in 1952, is open to all who are interested in any aspect of phycology. Either individuals or organizations may become members of the Society. The Japanese Journal of Phycology (SÔRUI) is published quarterly and distributed to members free of charge.

Inquiries and other information regarding the society should be addressed to **The Japanese Society of Phycology, Shimotachiuri Ogawa Higashi, Kamikyoku, Kyoto, 602 Japan.** The annual dues (1993) for overseas members are 7,000 Yen (Send the remittance to The Japanese Society of Phycology at the above address).

Manuscript for publication should be submitted directly to the Editor-in-Chief, **Prof. I. Shihira-Ishikawa, Department of Biology, Tokyo Gakugei University, Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184 Japan.**

1993-1994年役員

会 長 : 有賀 祐勝 (東京水産大学)
庶務幹事 : 佐藤 博雄 (東京水産大学)
会計幹事 : 能登谷正浩 (東京水産大学)
評 議 員 :

鯨坂 哲朗 (京都大学)
千原 光雄 (日本赤十字看護大学)
榎本 幸人 (神戸大学)
原 慶明 (筑波大学)
井上 勲 (筑波大学)
喜田和四郎 (三重大学)
右田 清治 (熊本県水産研究センター)
大野 正夫 (高知大学)
岡崎 恵視 (東京学芸大学)
奥田 武男 (九州大学)
田中 次郎 (東京水産大学)
谷口 和也 (東北区水産研究所)
秋山 優
山本 弘敏 (北海道大学)
横浜 康継 (筑波大学)
吉田 忠生 (北海道大学)

編集委員会 :

委員長 : 石川依久子 (東京学芸大学)
幹 事 : 真山 茂樹 (東京学芸大学)
実行委員 : 片山 舒康 (東京学芸大学)
川井 浩史 (神戸大学)
前川 行幸 (三重大学)
岡崎 恵視 (東京学芸大学)
渡辺 信 (国立環境研究所)
委 員 : 千原 光雄 (日本赤十字看護大学)
藤田 雄二 (長崎大学)
堀 輝三 (筑波大学)
井上 勲 (筑波大学)
加藤 哲也 (京都大学)
喜田和四郎 (三重大学)
小林 弘 (東京珪藻研究所)
大野 正夫 (高知大学)
舘脇 正和 (北海道大学)
都築 幹夫 (東京大学)
横浜 康継 (筑波大学)
吉田 忠生 (北海道大学)

Officers for 1993-1994

President: Yusho ARUGA (Tokyo University of Fisheries)
Secretary: Hiroo SATOH (Tokyo University of Fisheries)
Treasurer: Masahiro NOTOYA (Tokyo University of Fisheries)

Members of Executive Council:

Tetsuro AJISAKA (Kyoto University)
Mitsuo CHIHARA (The Japanese Red Cross College of Nursing)
Sachito ENOMOTO (Kobe University)
Yoshiaki HARA (University of Tsukuba)
Isao INOUE (University of Tsukuba)
Washiro KIDA (Mie University)
Seiji MIGITA (Kumamoto Fisheries Research Center)
Masao OHNO (Kochi University)
Megumi OKAZAKI (Tokyo Gakugei University)
Takeo OKUDA (Kyushu University)
Jiro TANAKA (Tokyo University of Fisheries)
Kazuya TANIGUCHI (Tohoku National Fisheries Research Institute)
Masaru AKIYAMA
Hirotohi YAMAMOTO (Hokkaido University)
Yasutsugu YOKOHAMA (University of Tsukuba)
Tadao YOSHIDA (Hokkaido University)

Editorial Board:

Ikuko SHIHIRA-ISHIKAWA (Tokyo Gakugei University), Editor-in-Chief
Shigeki MAYAMA (Tokyo Gakugei University), Secretary
Nobuyasu KATAYAMA (Tokyo Gakugei University), Associate Editor
Hiroshi KAWAI (Kobe University), Associate Editor
Miyuki MAEGAWA (Mie University), Associate Editor
Megumi OKAZAKI (Tokyo Gakugei University), Associate Editor
Makoto M. WATANABE (National Institute for Environmental Studies), Associate Editor
Mitsuo CHIHARA (The Japanese Red Cross College of Nursing)
Yuji FUJITA (Nagasaki University)
Terumitsu HORI (University of Tsukuba)
Isao INOUE (University of Tsukuba)
Tetzuya KATO (Kyoto University)
Washiro KIDA (Mie University)
Hiromu KOBAYASI (Tokyo Diatom Institute)
Masao OHNO (Kochi University)
Masakazu TATEWAKI (Hokkaido University)
Mikio TSUZUKI (University of Tokyo)
Yasutsugu YOKOHAMA (University of Tsukuba)
Tadao YOSHIDA (Hokkaido University)

日本藻類学会第18回大会のお知らせ

日本藻類学会第18回大会を下記の要領で開催します。奮ってご参加下さい。

会場：富山県民会館（3階）〒930 富山市新総曲輪4番18号 電話 0764-32-3111（代）

会期：1994年3月28-31日（大会・総会は30-31日）

	28日（月）	29日（火）	30日（水）	31日（木）
午前		エクスカージョン（続） （ワカメ養殖）	口頭発表	口頭発表 展示発表
午後	エクスカージョン （水族館・懇親会・泊）	市民向け公開講演・展示 評議員会・編集委員会	口頭発表 総会・懇親会	口頭発表

申込先：

大会参加申込票，発表申込票，発表要旨などの送付や連絡は下記宛にお願い致します。

〒936 富山県滑川市高塚364
富山県水産試験場 藤田大介気付
日本藻類学会第18回大会準備委員会
電話 0764(75)0036 FAX 0764(75)8116

参加申込：

- 大会参加者は発表の有無にかかわらず大会申込票に必要事項を記入し，上記の準備委員会宛にお送り下さい。また，口頭発表される方は，宛名を書いた返信用官製はがきを一枚同封して下さい。このはがきで発表者の発表日時を速報致します。なお，大会申込票と宛名は本誌綴込みの用紙を切り取ってお使い下さい。
- 大会参加費は4,000円（学生3,000円），懇親会費は3,000円です。綴込みの振替用紙でお送り下さい。

送金先：郵便振替口座 金沢8-30470 日本藻類学会富山大会事務局

- エクスカージョン：のとじま水族館と女良ワカメ視察の旅
次の行程で行う予定です。希望者は大会参加申込票に記入し，大会申込時に送金して下さい。
28日（月）：金沢駅前14:00発～のとじま水族館（ジャイアントケルプなど）～氷見灘浦海岸（温泉・懇親会・宿泊）
29日（火）：氷見灘浦海岸（採集可）～女良ワカメ養殖・灰付工程～富山県民会館12:00着
参加費用：1人10,000円（1泊2食付） 募集人員：約20人（先着順）
- 大会参加・発表・エクスカージョンの申込，送金，発表要旨送付の締切は1994年1月10日必着とします。締切日までにお申し込みいただいた方に限り，「富山の藻類」（藤田・濱田・渡辺編，富山県水産試験場刊）を会場にて無料で差し上げます。

富山からのメッセージ

富山県は，北アルプスの日本海側に開けた，自然の美しい県です。また，富山湾は，ホテルイカの群遊海面，蟹気楼，海底埋没林などで知られる神秘の海です。この地方では越中国守の大家持がアンツキの歌を詠み，延喜式が越中国でのワカメの産出記録を記しているように，古くから藻類と係ってきました。最近では日本一のコンブの消費地，日本海側有数のテングサの産地となっていますし，ワカメの灰付加工品のほか，クロモ，インモズク，アカモクなどの地場産の海藻も多く利用されています。立山のマリモや富山湾のホソエガサも，一見に値するでしょう。「海藻と漁村」や「富山湾海藻誌」などの著者として知られる郷土の海藻研究家大島勝太郎氏もご健在で，日本の海藻学を確立した岡村金太郎博士の思い出を今に伝えています。準備委員会では各種催物や日本海の幸などを用意し，会員の皆様のご参加をお待ちしております。

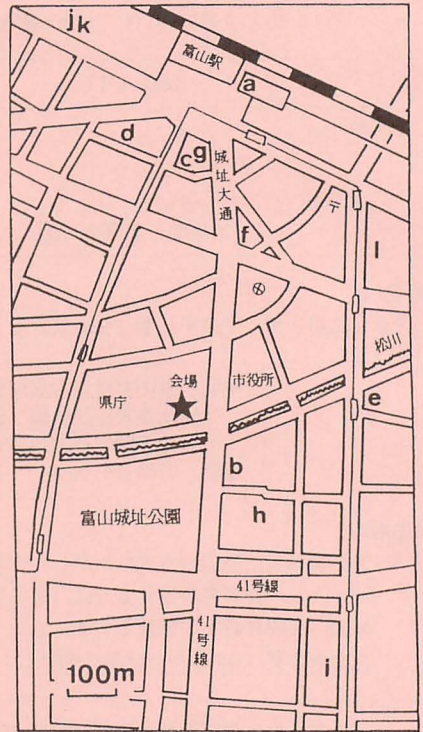
<交通案内>

- JR 北陸本線富山駅下車。駅前の城址大通を南に向かって徒歩10分。
- 富山空港から富山駅前行きバスで約20分。総曲輪（そうがわ）で下車。北に向かって徒歩5分。
- 北陸自動車道の富山インターからまっすぐ41号線を北に向かって車で約15分。会場にも駐車場（無料）がありますが、原則として夜間駐車はできません。

<宿泊案内>

- 以下に、会場周辺の主なホテルを掲げます。
- 所在地は右の会場周辺図を参照して下さい。
- 宿泊は各自で予約して下さい。車で来られる方は駐車場の紹介も受けて下さい。
- ほかに、旅館やホテルは多数あります。

共済関係では、富山市に KKR 富山銀嶺 (32-7701)、高志会館 (41-2255) などがあり、関係者は低料金で宿泊できます。また、周辺の観光地にも宇奈月温泉の黒部荘 (0765-62-1149)、金沢市の六華苑 (0762-22-4488)、山代温泉の KKR 山代荘 (07617-6-0355)、山中温泉のほくりく荘 (07617-8-2418)、和倉温泉の青柏荘 (0767-62-2164) があり、大会前後の宿泊にご利用いただけます。なお、富山市城川原にあるサウナ東洋健康ランド (38-0005) では予約せず低料金 (2,600円) の簡易宿泊が可能で、富山駅まで JR 富山港線 (所要時間10分、片道180円) で通えます。富山市浜黒崎のユースホステル (37-9010) は2,420円 (食事なし) から宿泊可能 (但し、初日は20:30までに要チェックイン、2~8人部屋で、グループ泊向き。富山駅~ユースホステル行きバス有り。)



大会会場（富山県民会館）周辺の案内図
(アルファベットは下記ホテルの所在地)

会場周辺の主なホテル

	シングル	ツイン	市外局番0764
a. 第一イン富山	7,365~	15,862	42-6611
b. 第一ホテル	9,971~	20,394~	42-4411
c. 富山エクセルホテル東急	9,174~	19,261~	41-0109
d. 富山ステーションホテル	7,478~	14,729~	32-4311
e. 富山ワシントンホテル	7,478~	15,296~	41-7811
f. ホテルアクシス	9,064	15,862	44-5550
g. ホテルα1 駅前	4,855~	8,827~	33-6000
h. ホテルα1 桜木町	4,985~	11,102~	32-1100
i. ホテルα1 荒町	4,500~	8,500~	21-2200
j. ホテルオカムラ	5,150	9,270	33-3800
k. ホテル立山・立山アネックス	5,250	9,990	32-1010
l. 名鉄トヤマホテル	8,838~	16,995~	31-2211

発表形式：

- 1) 従来の口頭発表と展示発表に加えて、市民向け公開展示（次頁参照）があります。大会参加申込票の希望する箇所に○をつけて下さい。
- 2) 口頭発表：発表時間は質疑応答の時間を含めて15分です。
使用スライドは 35 mm 版、スライド枠には、図 1 のように発表者氏名、発表番号（大会プログラムに記されているもの）、スライド総枚数、映写順序、上辺マークをご記入下さい。同じスライドを繰り返し映写される場合は、それに見合う枚数をご用意下さい。
- 3) 展示発表：1 題のパネルは縦 1.8 m×横 0.9 m、紹介時間は 5 分の予定です。展示パネル上部には図 2 のように発表番号、演題、氏名、所属を明記して下さい。表題には 5 cm 以上、説明文には 1 cm 以上の文字を使って下さい。展示物は 29 日 10:00～30 日 10:00 までに掲示して下さい。
- 4) 市民向け公開展示：展示形式や紹介時間は特に決めません。一般の方に藻類の学問的重要性、有用性、美しさなどを理解して頂けるような内容であれば歓迎です。例えば、生の藻体、プレパラート標本、写真などでも結構です。顕微鏡、その他の必需品はできるだけ実行委員会で揃えますので、具体的に御要望を出して下さい。展示物には、表題、氏名、所属を明記して下さい。展示は 29 日午前中にお願います。（要旨原稿は不要。プログラムには表題のみ掲載。）
- 5) 口頭発表と展示発表の要旨原稿は、以下の要領・見本に従って、ワープロ（24 ドット以上の印字）で作成して下さい。
 - ①原稿は B5 用紙（オニオンペーパーなど薄手の用紙は避ける）に明瞭な黒字（カーボンリボン等）で印字して下さい
 - ②原稿は演題等も含め、縦 150 mm×横 100 mm の範囲内に 24 字×22 行の印字を標準とします（枠で囲まないで下さい）。
 - ③著者名、演題、用紙本文、所属の順に書いて下さい。
 - ④著者が複数の場合には、演者名の前に○をつけ、所属が異なるときは、著者名の後に * 印を付し、区別して下さい。
 - ⑤ 1 行目ははじめの 3 字分（約 12.6 mm）をあけて下さい。（発表番号が入ります）。演題と要旨本文との間は 1 行分あけ、要旨本文は、最初の 1 字分をあけて下さい。

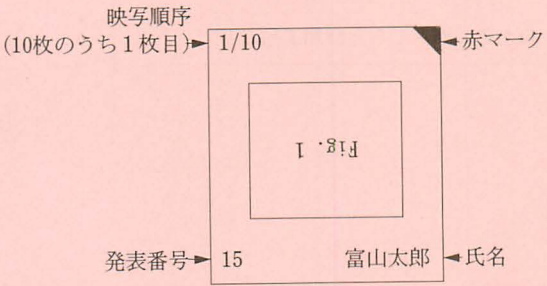


図 1. 使用スライド記入例.

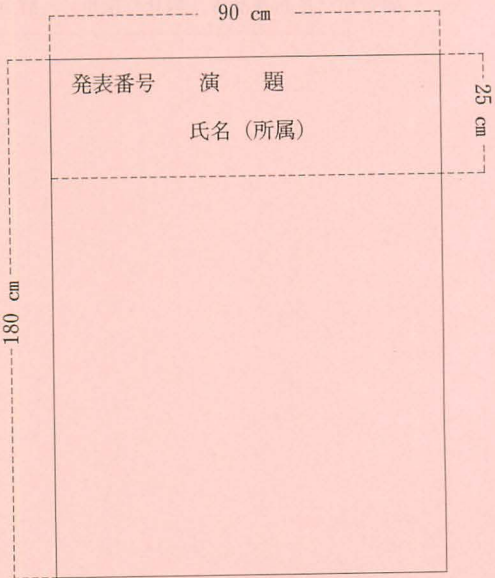


図 2. 展示パネル説明図.

- ⑥所属は（ ）内に入れて、最下段に表示して下さい。
- ⑦和文原稿の場合、句読点は「、」（コンマ）と「。」（マル）を使用して下さい。
- ⑧学名などはイタリックで表示するか、またはその部分に下線をつけて下さい。
- ⑨原稿は約 2/3 に縮小し、そのままオフセット印刷されます。折り曲げずに郵送して下さい。なお、著者校正はありません。

市民向け公開講演会・展示会の開催について

藻類学は、全国でも教えている大学が極めて少なく、系統立てて学ぶ機会是一部の人に限られています。そのため、藻類学会の会員でさえ、藻類全体について、広く把握することが困難な状態です。まして、一般の人は「藻」と言ってもすぐには理解できず、全く無関心な状態です。これまでの大会は会員相互の交流を図ることが主で、会員以外の方々との交流は余りありませんでした。しかし、藻類と日本人との関係は長くて深く、近年は環境問題や食料、さらには医薬品としても藻類に期待するところが大きくなっています。

そこで、富山大会では、従来の口頭発表と展示発表に加えて、「藻」に関する市民向けの公開講演会と展示会を開きたいと思います。講演会については、講師や演題など、大会実行委員会の方で既に交渉中ですが、展示会は会員の皆様に広く参加して頂きたいと思います。この展示会を通じて、学校の先生をはじめ、一般の方々の「藻」に対する興味を喚起するとともに、会員の知識をさらに広げ、日本藻類学会の大きな発展を期待するところです。

観光ガイド

県内の自然関係博物館

富山市科学文化センター
立山博物館（立山町）
埋没林記念館（魚津市、蜃気楼発生装置あり）

会場周辺の散策地

富山市役所展望台、富山市図書館
駅前マリエ7階無料ビデオコーナー
駅前シック5階物産・パンフレットコーナー
富山城址公園～松川べりプロムナード

富山の土産品

鱒寿司、昆布巻蒲鉾、刺身の昆布づ、鮮魚、ほたるいか・しらえび加工品など。

要旨原稿の見本

○工藤利彦*・増田道夫**：紅藻シヨウジヨウケノリの
形態学的研究

日本沿岸各地に生育する紅藻シヨウジヨウケノリには、Poly-
siphonia urceolata (Dillwyn) Greville の学名が与えられてきた。

……

……したがって、本邦産シヨウジヨウケノリの学
名は P. senticulosa に変更されるべきであると結論された。

(*札幌大・生物, **北大・理・植物)

○Boo, S. M., * J. Rueness, ** I. K. Lee*** and T. Yoshi-
da****: A New Combination in Aglaothamnion (Ceramiaceae:
Rhodophyta)

Examination of the type specimens of Callithamnion cal-
lophyllidicola and living materials collected from Tyoshi and……

……between *A. callophyllidicola* and *C. minutissima* is
discussed.

(*Chungnam Nat'l Univ., **Oslo Univ., ***

Seoul Nat'l Univ., ****Hokkaido Univ.)

(原稿には枠をつけないで下さい)

